

## 令和3年度 さいたま市立針ヶ谷小学校 学校関係者評価書

さいたま市立針ヶ谷小学校

学校関係者評価委員長 橋本 孝



### 1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

9名

(2) 実施回数

年間3回

### 2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

(1) コロナ禍における教育活動の実施について

昨年度に続きコロナ禍にあって、全学年で感染症対策に留意し、校外学習を実施することができた。修学旅行と自然の教室といった泊を伴う校外学習においても、高学年児童は日頃の「学校の新しい生活様式」を踏まえ、仲間たちと楽しい思い出をつくることができた。校内行事として運動会や「はばたけ針小っ子集会」等も、方法を工夫して開催することができた。保護者評価でも「教育環境の整備・改善」は、昨年度よりも評価が高く、今まで継続してきた取り組みが保護者にも理解されている。オンライン授業についても家庭の協力もあり、学びを止めることなく、学習内容を履修できている。

(2) 児童の挨拶について

挨拶についても、保護者評価では昨年度よりも高い評価を得ている。しかし、児童の自己評価は、昨年度と比べると、やや低下している。これは、コロナ禍において今までの子どもらしい元気な挨拶がしにくいことが原因にあると考えられる。また保護者の自由記述では、児童の挨拶について課題に感じている意見も複数見られた。今後は、学校と地域、家庭がコロナ禍における子どもの挨拶について、共通の目標をもって、それを目指して取り組んでいく必要があると考えられる。

(3) 児童の読書活動について

前述の項目同様、保護者評価では「読書活動を、推奨している」が、昨年度よりも評価が高くなっている。しかし、児童の自己評価では、「進んで本を読んでいる」が、2年続けて低下している。これはコロナ禍にあって感染拡大防止の観点から、児童が休み時間に学校図書館を利用できなくなってしまうことが原因であると考えられる。

### 学校関係者評価を受けた学校の対応

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、学年・学級閉鎖をすることもあったが、オンライン授業により、学びを止めることなく、教育活動を実施することができた。来年度は、オンラインで参加の児童の理解がより深まるような授業方法や手立てについても研修を深めていく。

挨拶については、より一層「心を潤す4つの言葉」を推進するため、11月の「心を潤す4つの言葉推進週間」の取り組みや代表委員会のキャンペーン活動などを通して、コロナ禍における声の大きさだけではない「心の潤う挨拶」について年間を通して指導を重ねていく。また、これらの取り組みを学校便りやホームページ等で発信することで、マスクで口元が見えなくても、互いの心が潤う挨拶が交わされる地域としていきたい。

読書活動については、来年度から児童の貸し出し冊数の増加を図るなど、感染症対策に留意した学校図書館の活用を推進していく。この状況下であっても図書ボランティアの皆様が学校図書館の環境整備等に多大なご尽力を頂いていることに教職員一同大変感謝している。

地域が好きで、地域と共に生きる子どもを育てるため、来年度から始まるコミュニティ・スクールにおいて、学校運営協議会の皆様を始めとした地域の皆様や保護者の皆様と力を合わせて、教育活動に取り組んでいく。

さいたま市立針ヶ谷小学校長

鈴木 康 弘

